

論文番号 70

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Alcohol consumption, metabolic cardiovascular risk factors and hypertension in women

女性における飲酒習慣、代謝性循環器疾患危険因子と高血圧

執筆者

Kiran Nanchahal, W David Ashton and David A Wood

掲載誌 (番号又は発行年月日)

International Journal of Epidemiology 2000;29:57-64

キーワード

女性、アルコール、危険因子、虚血性心疾患、高血圧、

要旨

背景

機会飲酒、中程度の飲酒群の死亡率は低いことが知られている。特に、主として虚血性心疾患死亡の低下が知られている。反対に多量飲酒者は死亡率が高くなり、脳出血と循環器疾患以外の死亡率が高くなる。アルコール量の閾値がどこなのかを、他の危険因子を考慮して考えることは重要なことである。今回の報告は、飲酒習慣と循環器疾患危険因子、10年間の虚血性心疾患スコアと高血圧の関係を、女性を対象にみてみた。

方法

14,077名の30歳から64歳までの女性を対象に、飲酒習慣を5つのカテゴリーに分け、循環器疾患との関連をみた。調査地は英国である。

結果

年齢調整後、飲酒量が増加するほどHDLコレステロール、アポリポプロテインA1は増加していた。また飲酒量が増加するほど、肥満度、血清総コレステロール(TC)、TC/HDL-C比、LDLコレステロール、アポリポプロテインBは減少していた。トリグリセリド、リポプロテイン(a)、空腹時血糖値とは傾向がみられなかった。

飲酒習慣のない群と比べて、飲酒習慣が増加するにしたがって、10年間の虚血性心疾患危険は低下していた。女性において最も危険度が低かったのは、一週間に1~7ユニットの飲酒量があった群で、オッズ比は0.79 (95%CI:0.72-0.87)であった。なお、一週間に15~21ユニットの飲酒量があり高血圧である群のオッズ比は1.68 (95%CI:1.14-2.46)であった。

まとめ

この研究は、脂質やリポタンパクを考慮した上での、女性の飲酒習慣と虚血性心疾患との関連をみたものである。一週間に1~14ユニットの飲酒量の群で虚血性心疾患の危険度は低下していたが、15ユニット以上で高血圧である群では増加していた。これらの知見から、女性の循環器疾患死亡を予防するには、一日14ユニット以下であることが示唆された。